

宮陵会報

Kyuu-Ryo

2023・7
(令和5)

No.116

一般社団法人
神奈川大学宮陵会
広報委員会

〒221-0802
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学内
TEL 045-481-5661
(内線 2451~3)
FAX 045-413-0791
kyuryou-jimu@kanagawa-u.ac.jp



「横浜キャンパス ヤマモモの大木と31号館(建築学部)」(絵 渡邊 恵子)

目次 No.116

定時総会報告	P2
宮陵会事務局からのお知らせ、表彰者芳名、表紙のことば	P3
新役員の紹介	P4
2022年度事業報告・決算、2023年度事業計画・予算	P5
活躍する卒業生(正木光一さん、古川正和さん)	P6~P7
話題 石田貞夫ゼミ「石田貞夫先生生誕100周年記念の集い」の告知	P8~P9
「同期・同好」宮陵会の報告(男子ラクロス部OB会、マンドリンアンサンブルOB会)	P10~P11
話題 モダンジャズ時代の楽器を寄贈	P12
卒業生の声(投稿)、読者プレゼント	P13~P15
会費の納入のお願いとその方法	P16

2023(令和5)年度 定時総会報告

昨年度に引き続き6月10日、横浜キャンパスセレストホールで定時総会を開催した。その様子を報告します。
(専務理事 佐藤武)

本年4月以降、神奈川大学における授業がほぼ対面授業に戻り、5月8日からは新型コロナウイルスの感染症上の位置付けが、5類に移行され、マスクの着用も原則、個人の判断に委ねられるようになった中で、定時総会であった。



壇上であいさつする久保清治宮陵会会長

◇本人出席112、議決権行使24、委任状出席45

社員総数195のうち、本人出席108、議決権行使24、委任状出席45(受任者は議長に39、会長に6)の計181名の出席。庄子さち子理事(昭54法)の司会による総会は、4年ぶりの校歌「斉唱」で幕を開けた。はじめに、久保清治会長(昭43買、

50経博)が開会あいさつ。定款第16条に基づき、総会議長に本会代議員の浅野博之氏(昭43買、宮城県宮陵会会長)を満場一致で選任。司会者から定款第18条に定める社員総数の過半数を満たし総会は成立した旨の報告があり、議長が議事録署名人に社員の木村仁氏(昭48買)と村山宏幸氏(平6情)の2人を指名、審議に入った。

◇議案は原案通り承認

議事は、久米信行専務理事(昭49経)が①報告事項として22年度の事業報告、23年度の事業計画及び予算②決議事項として第1号議案の「22年度決算承認の件」を説明。監事の金子浩也氏(平17経博前)が監査報告を行った。質疑応答などを経て、第1号議



来賓あいさつする石渡卓理事長



来賓あいさつする小熊誠学長

案は原案通り承認された。

報告事項に関連して、社員小川隆司氏(42法)から、①会員の住所把握状況②大学ランキング状況についての質問、社員庄子忠宏氏(昭40工経)からは、財政基盤の確立に関する具体的内容や会費制度の見直しなどに関する質問、また社員松本竜郎氏(昭63法)から、在学生の課外活動に対する支援方法などに関する意見、社員泉澤高光氏(昭47英)からは、コロナ禍で疲弊している地域組織への支援策に関する意見が出され、久保清治会長はじめ、久米信行専務理事や佐藤武専務理事(56経)が対応した。

続いて、佐藤専務理事から決議事項の第2号議案の「役員選任の件」を説明。浅野議長が定款第19条第3

項の規定により候補者ごとに決議を行い、原案のとおり承認され、新役員4頁に掲載が決定した。

例年にも増して非常に活発な議論が展開された結果、定刻を大幅に過ぎて議事終了となった。

◇石渡理事長、小熊学長、花嶋事務局長が来場

続いて、石渡卓^{たかし}学校法人神奈川大学理事長や小熊誠^{まこと}神奈川大学、齋藤^{つよし}勤^{つよし}学校法人神奈川大学副理事長、並びに花嶋とみ子事務局長・理事が入場された後、司会者が臨時理事会で決定した新三役(会長、副会長、専務理事)を会場で紹介した。



定時総会の様子

宮陵会事務局 からのお知らせ

◆ 会議予定

理事会 2023(令和5)年 9月 29日(金)
12月 8日(金)

◆ 夏季一斉休暇

2023(令和5)年8月14日(月)～8月17日(木)

◆ 地域組織 新代表者紹介

札幌宮陵会	昭51法	柴山ひろこ 様
岐阜県宮陵会	昭43経	岩井志郎 様
西多摩宮陵会	昭42法	山下敏勝 様

◆ 事務局よりお願い

【住所等の変更について】

登録されている氏名・住所・電話番号・勤務先などに変更があれば、ご連絡をお願い申し上げます。

① 神奈川大学ホームページ

住所等の登録・変更申請について

https://www.kanagawa-u.ac.jp/alumni_menu/registration/

② FAX 045-413-0791

③ E-mail kyuryou-jimu@kanagawa-u.ac.jp

※登録いただきました情報は、皆様の個人情報の重要性を深く認識し個人情報保護方針に従い適正な保護管理に努めています。

お詫びと訂正

本年4月発行の『宮陵72号』22頁の栃木県宮陵会総会に掲載しました集合写真は、令和元年度総会時のものでした。正しくは、この写真です。訂正してお詫びします。なお、本会HP上では正しい集合写真をご覧いただけます。



表紙のことは

題名「横浜キャンパス

ヤマモモの大木と31号館(建築学部)」

2023(令和5)年7月制作 F10号

横浜キャンパス本館前の山桜の木。それは、昭和47(1972)年創立者米田先生により南伊豆から移され、ずっと私たちを見守ってきた。この山桃と竣工したばかりの31号館を対比した。学生の頃はロックアウト状態で構内にも入れ

なかったのに、今は自由往来でき猫も散歩している。山桃のアイスが食堂にあるらしい。

渡邊恵子(1977年法学部法律学科卒)



次に、石渡理事長や小熊学長から、ご自身の自己紹介や大学の近況報告を含めたあいさつがあった。

◆ 表彰者芳名の披露

最後に、司会者が「23年度表彰者芳名」を披露した。出席した特別表彰の2名に対し、久保清治会長が表彰状と記念品を授与し、全てのスケジュールが終了した。

表 彰 者 芳 名

■ 功労表彰(表彰規程第2条第2号該当)

地域組織関係

宮原 進様 (昭和48年工学部建築学科卒業、元旭川宮陵会会長)

池田靖宏様 (昭和39年工学部工業経営学科卒業、元京滋宮陵会会長副会長)

長谷川進一様 (昭和38年法経学部経済学科卒業、元防長宮陵会会長・事務局長・事務局)

■ 感謝表彰(表彰規程第2条第3号該当)

地域組織関係

阿部 滋様(故人) (昭和36年法経学部経済学科卒業、元北見宮陵会副会長)

海老澤 栄一様 (昭和40年法経学部貿易学科卒業、元埼玉宮陵会会長)

内田青蔵様 (昭和50年工学部建築学科卒業、昭和52年大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了、元神奈川大学学内宮陵会会長)

佐藤重夫様 (昭和45年経済学部経済学科卒業、元社労士宮陵会会長)

■ 特別表彰(表彰規程第2条第4号該当)

新倉すみれ様

(人間科学部人間科学科3年、JOCジュニアオリンピックカップ令和4年度ジュニアクリンズカップスリング選手権大会U20の部72kg級優勝、2022年アジア選手権女子72kg級2位、明治杯令和4年度全日本選抜スリング選手権大会女子72kg級2位、2022年度U20世界選手権女子72kg級3位、2022年度U23世界選手権女子72kg級3位、令和4年度「天皇杯」全日本スリング選手権大会女子72kg級優勝、ザグレブ・オープン女子72kg級3位)

濱浦 尋様

(理学研究科理学専攻博士後期課程2年、第30回環境化学討論会 Royal Society of Chemistry 賞)

石原 愛依様

(人間科学部人間科学科4年、第98回日本選手権水泳競技大会兼第19回アジア大会代表選手選考会兼第9回ジュニアパシフィック大会代表選手選考会女子200m個人メドレー5位、第98回日本学生選手権水泳競技大会女子200m個人メドレー2位、第64回日本選手権(25m)水泳競技大会女子200m個人メドレー3位、2023日本パラ水泳春季チャレンジレース兼2023年度日本代表選手選考競技会100m平泳ぎ(SB13)優勝(日本記録)200m個人メドレー(SM13)優勝(日本記録)

新役員の紹介



専務理事
萩原くみこ
(昭59法)



専務理事
佐藤 武
(昭56経)
組織委員会委員長



専務理事
久米 信行
(昭49経)
総務財政委員会
委員長



副会長
三宮 政俊
(昭51法)
事業委員会委員長



副会長
原 柳作
(昭46英)
広報委員会委員長



会 長
久保 清治
(昭43賢)



理 事
渡邊 恵子
(昭52法)
交流企画委員会
委員長



理 事
内田 青蔵
(昭50建)



理 事
小林二三夫
(昭48賢)



理 事
宮澤 俊次
(昭48経)



理 事
藤井 俊二
(昭46法)



理 事
伊藤 恵一
(昭44法)



理 事
指 旗 博
(昭62応化)



理 事
能重 幸夫
(昭62経)



理 事
堀江美由紀
(昭58法)



理 事
萩谷恵里子
(昭56法)



理 事
庄子さち子
(昭54法)



理 事
内山 曜子
(昭53経)



監 事
横山 朗
(平18法務)



監 事
金子 浩也
(平17経博前)



監 事
藤田 伸哉
(昭50賢)



理 事
矢島 俊明
(平11国経)



理 事
和知 親裕
(昭63賢)

読者から寄せられた『宮陵 (No72号)』(本年4月発行)の感想です。その一部を紹介します。(編集部)

いつも『宮陵』をお送りいただきありがとうございます。懐かしさで何度も読み直し、当時を思い出しています。72号では、内子町役場の総務課長・黒澤賢治氏の内容に強く関心を持ちました。理由は、私のふるさと宇和島市とは近く、現在、地元の内子高校の校長は、私が八幡浜高校に勤務していた時の教え子です。また、隣町にある大洲高校の校長は、宇和島東高校の後輩です。近日常に内子町役場を訪問し、黒澤課長とお会いして母校神奈川大学で学んだ懐かしい想い出話をする予定です。

(愛媛県、昭和42年経済卒)

毎回、掲載記事を懐かしく、
当時を思い出しながら拝
読させていただいています。「卒
業生の声」は、特に当時のことが
昨日のことのようによみがえり
ます。(北海道、昭和52年経済卒)

18、19頁を読んで、箱根駅
伝、今年は出場ならず、と
ても残念でした。来年は必ず出
場してほしいです。予選会は応援
に行きます。陸上部だけでなく
活躍している神大生の記事を読
むと、元気になり、誇らしいです。
(神奈川県令和3年情報システム創成卒)

私にとっての神大卒のプライド

横浜市訪問介護連絡協議会 代表 正木 光一（59歳）

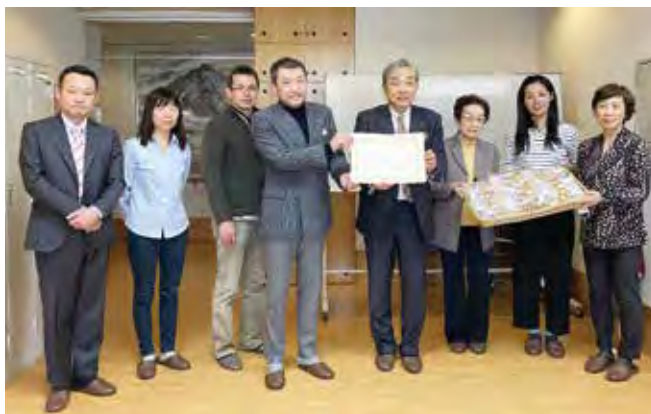
私の神奈川大学時代を振り返ると、社会勉強という名のアルバイトと、仲間との親睦を深めるということ、仲間とモージャンに明け暮れ、残りの時間でちよっと講義に出るという怠惰な学生生活を送っていました。横須賀市の自宅から通っていたため、親に甘えやりたい放題の生活でした。卒業後は地元パートの外商を経て、外資系のフルコミッションの生命保険会社で15年間営業の仕事をしました。とても厳しい世界でたくさんの方の仲間の成功と挫折を見てきました。妥協のない15年にチャレンジし、経験したことにより今があると思います。

令和4年度から横浜市18区450事業者が加盟する横浜市訪問介護連絡協議会の代表に就任しています。ヘルパーの人材不足の改善やスキルアップ、中学校への職業講話の授業を行い若い人の関心を高める活動を行います。



横浜市訪問介護連絡協議会の総会で代表に再任され「訪問介護のイメージアップを図り、若い世代に働きかける活動を続けたい」とあいさつ（23.5）

また個人的には地域との関わり合いを大切にしようと、所属する横浜山手ロータリークラブ（RC）で子ども食堂の支援を担当しています。コロナ禍で売り上げが減少した障がい者作業所の支援を目的に、作業所が製造する焼き菓子をRCで購入し、子ども食堂に寄贈する取り組みを進め、多くの人の笑顔に出会えることが元気の源となっています。



横浜山手ロータリークラブの一員として子ども食堂から感謝状をいただく（左端筆者、21.3）

ビジネスをするようになりました。やはり同郷や学校OBは親しみやすいですね。いい意味で刺激をもらい、特に横浜で商売をするには必ずと言っても良いくらい神大卒業生に会うので、恥ずかしいことは出来ません。現在は勉強しなかった習慣の学生時代のつげが回り、資格が必要な業種を創業したことにより、50代半ばからファイナンシャルプランナーや宅地建物取引士を取得し、今年は介護福祉士の資格を取ることができました。

学生時代のつげを少しずつですが返しています。今さらながら、いい大学を卒業したと心から思っている。今日この頃です。



まさき・こういち
1988(昭和63)年神奈川大学経済学部貿易学科卒業後、横浜の百貨店で外商部勤務。その後、プルデンシャル生命保険でフルコミ営業15年を経て未経験の訪問介護の会社を創業。今は介護、保険、不動産事業の老後の生活と資産を守る会社へ業務の幅を広げている。横浜山手ロータリークラブ所属。



経営する不動産会社の前で筆者

神奈川大学、ラクロス部から学んだこと

ゼブラ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社 社長

古川 正知(51歳)



ふるかわ たかのり
1971年山口県光市生まれ。51歳。1995年神奈川大学経済学部経済学科卒。伊藤修ゼミ。同年旧財閥系企業入社。97年モトローラ株式会社入社、12年エンタープライズ事業部長就任。14年からZebra Technologies日本法人代表。

「ああ、棒の先に網がついていて、ボール入れてクルクルするやつね？」ラクロスの認知度は徐々に上がってきたように思うが、1991(平成3)年に神奈川大学ラクロス部が同好会としてスタートした頃は、誰も知らない怪しい部活だった。

95(平成7)年には、神奈川大学体育会所属の男子・女子ラクロス部として活動を開始。先日、創立30周年記念式典が開催されたが、60名程度の部員に加え、400名以上のOB、OGを抱える組織になった。最近のラクロス部の実績は、昨年の関東学生リーグで入替戦に勝利し、男女ともに2部に昇格を果たした。また、今年米国サンディエゴで開催されるワールドカップに日本代表(2023年卒、箱崎蒼太さん)を輩出するなど、目覚ましい成長を遂げている。

自身の話になるが、新卒で入った旧財閥系企業の古い体質に2年で見切りをつけ、米国系携帯電話システムベンダに転職。現在はZebra Technologies Corporation

の日本法人代表として、小売・運輸物流・製造・医療の現場におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進を行なっている。神奈川大学及び、ラクロスで学んだことが、社会人としてステップを踏んでいく上で軸になっている。

ゼミは、伊藤修ゼミ(産業政策論)を選択。教授や仲間たちと共に政府の産業政策の功罪について研究、今後の産業育成と行政のあり方について議論を行った。この経験は、次世代携帯電話システム(WiMAX、LTE)の総務省、携帯電話事業者への提案、導入に際して役立った。

ラクロス部では、二代目の主将として2年間チームを引っ張り、関東学生リーグの2部から1部に昇格。関東ベスト4までチームを引き上げることができた。悩みながらのチーム運営ではあったが、チームメートの協力があってこそ成し得たことであり、リーダーシップ、チームワーク、目標設定・計画立案・実行・反省の重要性を学んだ。また、当時の日本のラクロスは、リーグ戦や全国大会、

国際大会などの開催、普及活動などを他大学と連携することで運営されており、大会運営への参画、日本ラクロス協会海外部での海外チームの招致、サポートなどにも積極的に関与した。ラクロスを通じて、人間関係の構築、異文化交流(国内・海外)の経験を積み、また英語力も向上した。これらの経験は、社会人としての基礎になっている。

皆さまとは、時代や環境が異なるが、是非、色々なことにチャレンジして頂きたい。私自身も、今でもチャレンジをしていく必要性を感じている。最後に、神奈川大学ラクロス部は、不動産・芸術専門誌の社長、新進気鋭の一級建築士、売れっ子イラストレータ、日本一ベントンを売る男など、多くのリーダーを輩出している。今後も色々なリーダーが出てくることを期待している。



ゼブラ・テクノロジーズのパートナーイベントで講演(22年3月)



昨年の男子ラクロス部が関東学生リーグの入替戦に勝利した後。後列右から4人目(中央)が筆者

石田貞夫先生 生誕100周年記念の集い



神奈川県で教鞭をとっておられた頃の石田先生
(写真=いずれも古家秀紀さん提供)

石田貞夫先生の生誕100周年の集いを、
そのゼミ生が企画し9月16日、みなとみらいキャンパスで行う。
その集いに先立ち、教え子たちから先生の思い出などを寄せてもらった。
紹介します。(編集部)

石田貞夫先生の 思い出

二重作 元 (イスタンブール在住)
1971(昭和46)年経済学部貿易
学科卒業、石田ゼミ15期生

卒業から数年が過ぎたある朝、JR川崎駅の改札口で偶然石田先生にお会いした。ラッシュ時で十分な話も出来ぬまま、先生は川崎商工会議所の講習会へ、私は勤務先の化学品貿易本部に急いだ。別れ際に先生から「人生は山あり、谷あり、めげずに懸命に努力するように」と励まされた言葉が今も心に残る。

海外で活躍したいと志を共にした私たち15期生。最終14人(女子3、男子11)が石田ゼミの入室を許可された。「教師は我が天職」と公言されていた先生は、私たちに心血を注いで貿易実務、商業英語、のご指導を下さった。お陰で、卒業時には6割のゼミ生が貿易関係の仕事に就き社会生活をスタートさせた。

授業中に先生からお話のあった「舫い綱」と言う貿易用語。一艘の船を岸に繋ぎ止める綱。二艘以上の船を繋ぎ止める綱。ゼミの仲間との繋がりを大切に世界に羽ばたいて欲しいと願う先生の言葉だったような気がする。

る。海外駐在を何度も経験し、40数カ国への出張を繰り返して来た私には、この「舫い綱」が世界と私を繋ぐ会社人生の拠り所だった気がする。今年石田先生ご生誕百周年。全身全霊を傾けて私たちをご指導して下さいました石田先生には、15期生皆が感謝の気持ちでおります。



3年次に7期生が網代に1泊した際の集合写真

池田芳彦

(タマサート大学客員研究員)
1982(昭和57)年経済学部経済
学科卒業、石田ゼミ26期生

百歳の石田先生がご存命であれば、何と仰るだろうか。大学卒業後のキャリアを石田先生のアドバイザーに委ねて

読者から寄せられた「宮陵(No72号)」(本年4月発行)の感想です。その一部を紹介します。(編集部)

「宮陵」の送付、ありがとうございます。卒業生の活躍を大変うれしく思っております。当時の平塚キャンパスがなくなってしまうのは残念ですが、跡地がいつまでも地元の方に愛される場所となるよう願っております。どのように活用されるか決まりましたら、このような広報誌を通じ、報告いただけると幸いです。遠方からでは情報が入手しづらく、広報誌だけが貴重な情報源となっております。

学生の頃は、南原のアパートから平塚キャンパスまで自転車に通っておりました。自動車や原付バイクで通う方法もありましたが、「楽をすることに慣れた未来の自分」になるのが怖く、ペダルを漕ぎ続けた4年間でした。自動運転技術が発達し、移動が楽になる反面、足腰を含めた人間の健康が犠牲になる世の中に現代は向かっています。健康を守るために技術革新に抗う生活を意識している毎日です。

自転車降り、キャンパスまで歩くイチョウ並木が好きでした。イチョウが与えてくれる情緒ある風景を懐かしく思い出します。SAプログラム(海外の提携

石田貞夫先生生誕100周年記念 「卒業生の集い」

- ▽日時／本年(令和5)9月16日(土)午後2時から
- ▽会場／神大みなとみらいキャンパス1階
「VOYAGE(ボヤージュ)」
(みなとみらい線「新高島」駅徒歩4分、または「横浜駅」から徒歩11分「桜木町駅」から徒歩12分)
- ▽会費／10,000円(記念品付)
- ▽問い合わせ／荻原博(石田ゼミ17期)
kuishida100@a05.itscom.net
杉戸修一(石田ゼミ35期)
070-8364-7920

石田貞夫先生略歴

1923(大正12)年9月新潟県柏崎市生まれ。47(昭和22)年9月東京大学経済学部卒業。55(昭和30)年から94(平成6)年まで神奈川大学の教壇に立っておられた。99(平成11)年2月12日ご逝去。

うれしかったのは、学内で英字新聞部を創部して新聞発行を始めた時に、先生が励まして下さったこと。忘れ難い思い出は、私が4年生の秋だった時に先生が明治大学

きたが、どうやら先生の期待にはまだ応えられていない気がする。就職を相談したら「池田君はお酒が飲めないから商社は駄目だ」と言われて愕然とし、さらに「勉強もしてないから大学院に來い」と言われて何故かしら素直に「はい、そうします」と即答した。

院生時代は、先生の助手として貿易研修センター(貿易大学)に年に何回か滞在し、先生のビールに缶コーヒーでお供をした。博士課程修了時、就職を何も考えていなかった私に「ここに行って面接してこい」と言われた大学(文京学院大学、着任時は文京女子短期大学)に30年以上。国税庁(税務大学校)の講義も「来月からよろしく」と先生に言われて25年以上。大学卒業後のキャリアの全てを石

田先生が敷いてくれた。

2023年4月からタイ・バンコクのタマサート大学で客員研究員として着任したばかりである。石田先生なら「行ってこい」と仰ると思ひ、決断した。神大の商業英語の授業で、先生の語る東南アジア歴訪の話の思い出しながらチャオプラ川沿いの研究室でこれを書いていく。

古家 秀紀

1963(昭和38)年法経学部貿易学科卒業、石田ゼミ7期生

神大貿易学科で学んだ我々にとつて、石田ゼミでの専門科目「貿易商務論」で貿易の実務を体系的に身につけることができたこと、国際港都横浜の地の利を生かした母校には、英語力強化の機会がふんだんにあった

ことを生かして真面目に勉強をした甲斐があり、卒業後は入社した会社での仕事を遂行するのに大変役立ちました。

よりスカウトされて、神大をお辞めになるとの話しを聞いたので、先生の進路を邪魔することになりましたが、当時の大野教務課長や事務局長に先生がお辞めになると神大貿易学科の力が大きく損なわれると主張して、先生を是非神大に引き留めて欲しいとお願ひして回り、同様の他の人たちのお声もあつて結局、先生は兼務で神大に残って下さることになり、定年まで先生は神大兼務を続けて下さったこととす。

2020年6月に中村那詮先輩が入院されるまで、同先輩と後輩の一人及び私の三人で先生の命日には毎年お墓参りに行きましたが、入院後は後輩と私の二人だけになってしまいました。



石田先生と一緒に(手前が筆者、奥は故 鶴居惲輔さん)

読者から寄せられた「宮陵(No72号)」(本年4月発行)の感想です。その一部を紹介します。(編集部)

大学に留学し、英語講座を受講するプログラム)を利用して訪れたイギリス・オックスフォード大学は、自然豊かなキャンパスでした。ビルのような大学が悪いというのではないですが、自然から見つける情緒も人生に彩りをくれる要素であると思います。

直近で見たみなとみらいキャンパスは、まだ建設中でクジラが描かれた看板だけが目立っており、なかなか足を運ぶ機会がなく、その時は横浜マラソンの参加翌日のことだったと記憶しております。今度訪問の際は、キャンパスに足を踏み入れることが出来るので楽しみです。

同窓会広報誌が届く度、変化がありながらも同じことを繰り返す日常にあつて、当時は思い出す時間に一息の安らぎを与えてくれます。次回の広報誌を楽しみにしております。

(山形県、平成28年国際経営卒)



◆「同期・同好」宮陵会のなかから、創部30周年式典を開催した男子ラクロス部OB会と、定期演奏会を終えたマンドリンアンサンブルOB会の活動内容を紹介しします。

(編集部)

神奈川県立神奈川大学ラクロス部OB会 創立30周年記念式典を終えて

神奈川県立神奈川大学男子ラクロス部OB会 会長 植草 佑太

2008(平成20)年9月第二法学部法律学科卒業

ともあり開催を見送ることとなりました。

そんななか昨年、男子ラクロス部、女子ラクロス部ともに関東学生リーグ2部へのアベック昇格を果たし、また新型コロナウイルスも5類感染症へ移行されたこともあり、今年、創立30周年記念式典を開催することとなりました。

記念式典を開催するにあたり、実行委員会を結成し、会場探し、役割決めなどをオンラインで打合せをしました。実行委員の多くが子育て世代ということもあり、オンライン打合せの前に子供を寝かしつけたりと、家事・育児で忙しいなか協力をして

もらえたことには本当に感謝しかありません。

創立30周年記念式典は、6月3日、横浜市中区の横浜ベイタワーで宮陵会の原さんをはじめ、顧問の笹川俊先生、前原吾朗先生そしてコーチ、OB、OG、現役学生と皆さんお忙しいなかお集まりいただき、約150名が集う記念式典となりました。

創立30周年記念式典を終えて感じることは、多くの人からの協力があったからこそ記念式典を開催することができ、そして無事に終えることができたということです。ご協力をいただきました皆さまへの感謝を忘れず、これから40年、50年と神奈川大

学ラクロス部が続いていくよう、微力ではありますが、私もできることをやっつけていきたいと考えております。これからも神奈川大学ラクロス部へのご支援、ご声援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

これからの神奈川大学ラクロス部へ

のご支援、ご声援のほど何卒よろしく

お願い申し上げます。

くお願

ラクロスというスポーツは、1986(昭和61)年に日本に伝わったとされており、86年に慶應義塾大学が日本で最初にラクロスチームを結成しました。神奈川大学では、創設者である小泉さんが、メンバー集めのチラシ配りからスタートし、賛同するメンバーが集い、91(平成3)年から神奈川大学男子ラクロス部の歴史が始まりました。

そんな神奈川大学男子ラクロス部も30年もの年月が経過し、今では約300名のOB、OGが存在します。また今年の6月にアメリカで開催されましたラクロスワールドカップの日本代表に神奈川大学ラクロス部OBの箱崎蒼太さん(2023年卒)が選出されました。

これまで創立10周年、20周年と節目ごとに記念式典を開催してきましたが、30周年になる年はコロナ禍というこ



▲ラクロス創設メンバー(前列真ん中が創設者の小泉さん)



▲ラクロス現役学生(男子)



▲ラクロス現役学生(女子)



◀ラクロス記念式典実行委員メンバー

▼ラクロス部創立30周年に会場された参加者(23.6.3 横浜ベイタワー)



2019年に開催した第1回定期演奏会以来の実に4年ぶりの公開演奏会でした。その間は、コロナ禍の影響で活動が停滞し、練習や演奏会開催を諦めざるを得ない苦しい状況に追い込まれました。KMEも同様で、新入部員の勧誘も

本年5月28日、横浜市の鶴見区民文化センター・サルビアホールで、マンドリンアンサンブル『ハマロク』（以下ハマロク）は、現役学生の『マンドリンアンサンブル』（以下KME）とジョイントコンサートを開催、盛況のうちに無事終了しました。ハマロクは、KMEのOB、OGをメンバーとするマンドリン合奏団です。現在の団員は20人で、宮陵会公認団体である神奈川県大学マンドリンアンサンブルOB会の支援を受け、年1回の定期演奏会の開催を目標に活動しています。



「マンドリンアンサンブル」と「ハマロク」の合同ステージ
(23.5.28 鶴見区民文化センター・サルビアホール)

ハマロクにとって、2019年に開催した第1回定期演奏会以来の実に4年ぶりの公開演奏会でした。その間は、コロナ禍の影響で活動が停滞し、練習や演奏会開催を諦めざるを得ない苦しい状況に追い込まれました。KMEも同様で、新入部員の勧誘も

ままならず、廃部まで危惧される非常に厳しい状況にあり、OBとしても気が気ではありませんでした。それでも、現役学生諸君の部活への愛情と努力によって、少しずつ部員数も増え、コロナの5類移行に伴う諸規制の緩和もあり、我々OBも現役学生に励まされるように、今回のジョイントコンサートの開催へと進みました。

JOINT CONCERT

神奈川大学マンドリンアンサンブル
マンドリンアンサンブル
ハマロク

日時
2023年5月28日(日)
開場 **13:30**
開演 **14:00**

会場
横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール 4Fホール

**入場無料
全席自由**

プログラム

キキキ (GleebeN)
戦後の宇治煎 (青山湖)
パタラライエフクト (青山湖)
奥の細道 (A.アマダ)
Masquerade (武蔵野楽)
田舎風第一貴客と我の依り (鈴木時)
雪の行方 (柴崎利文)

お問い合わせ先
Email: kanakou@kme-pyokohama.com
電話: 080-5068-4509 (前橋)

KMEハマロクジョイントコンサート2023チラシ

本格的なホールでの演奏会はハマロクもKMEも久しぶりなので、練習を含め準備段階からいろいろ不安な面もありました。しかし、「やる以上は後悔しないよう精一杯やろう！」と現役学生とOBが「KME精神」(?)で一致団結。なんとか最後のアンコール曲まで終わった時には、無事に終了した解放感と心地よい疲労感が感じられ、開催までの苦労が報われたように思いました。

当日のお客さまに回答していたアンケートを見ると、もちろん厳しい指摘もありましたが、おむね好評で、満足していただけたようです。今後の活動の糧にしたいと思えます。



『マンドリンアンサンブル』と『ハマロク』のジョイントコンサートを終えて

マンドリンアンサンブルOB会 会長 **那須 晃一郎**
1979(昭和54)年法学部法律学科卒業



演奏後の集合写真

モダンジャズ時代の楽器を寄贈

「つながる」を続けよう～ College Sounds Orch. 世代の轍わだち～

荒井 美智江

2000(平成12)年 外国語学部中国語学科卒業

横浜キャンパスセレストーホールで2023年3月12日(日)3年振りにCollege Sounds Orch. (以下カレッチ)OBコンサートが開催された。

コロナ禍で授業はオンライン、部活動は自粛を余儀なくされ、カレッチ(ビッグバンド)も苦しい日々が続いていた。そんな折の22年の年末、一本のメールが。「カレッチはこのままだと廃部の危機が迫っている。」メールからただならぬものを感じ、マネージャーの那波祐斗君(当時4年)から事の詳細を聞いた。コロナの影響で部員が激減し、4年7名、3年ゼロ、2年1名、1年2名という状況で、18人編成での演奏は難しい状況に陥っていた。そんな中「OBコンサートを開き、部活動を活性化させる力にしたい。OBの力をお借りできないか」のお声で、現役・OB4バンドを含むコンサートが開催され、大盛況となった。

この状況は思いがけず副産物を生むこととなった。カレッチOB他混成バンド「修善寺バンド」も3年の休止から再起動し、新しい絆も生まれた。遠方からのメンバーや現役学生も参加し、上は還暦から下は現役学生までと多世代の編成となり、日常を忘れ、全員ビッグバンドに没頭した。今回修善寺バンドに参加した武井清志先輩(1994年

英語英文学科卒)から同郷の犬飼政秀先輩(1981年経済学科卒)を紹介して頂き、もう一つの絆を繋ぐ形となった。

犬飼先輩は学生時代からサクスを吹いており、長野県松本市でも精力的にバンド活動を行っていたが、数年前から筋ジストロフィーが進行し、楽器演奏が徐々に出来なくなってきた。学生時代から苦労して収集した楽器の活用方法を考え、全ての楽器(サククス3種、クラリネットやピッコロ)をカレッチに寄贈して下さった。楽器は修理調整された総額200万円程の貴重な物だ。犬飼先輩は「学生たちにモダンジャズ黄金時代に製造されたサククスの素晴らしい音色を是非体感してもらいたい。また、それを吹くことで演奏技術の向上にもなるはずなので、ぜひ現役学生で継承してもらいたい」と話した。今回の寄贈にあたり楽器類の散逸防止(盗難を含む)の観点から、楽器に名前を刻印した。楽器の寄贈をう



OB コンサート開催の様子(修善寺バンド)



現役学生と犬飼氏楽器寄贈時の写真

け、現役学生たちが犬飼先輩の住む長野県松本市を訪問し、授受を行った。コロナで旅行もままならなかった学生たち。南アルプスの美しい風景と犬飼先輩の思いが心に刻まれたのではないか。カレッチ創設より62年が経過しコロナを経て、OBコンサートが開催されたことで多世代の交流が生まれ、新しい絆ができた。今後も受け取った櫛を次の世代に渡しながら「つながる」を続けていきたい。

宮陵会の皆さまに於かれても、学生時代に所属していた部活動やサークルへの様々な思いがあることと思えます。この文章がかつての交流を思い出し、取り戻す一助となれば幸いです。



卒業生の声

多くの卒業生から

さまざまな声をお寄せいただきました。



横浜中華街で 英字新聞OB会を 開催

東京都 梅沢 英紀(82歳)

1967(昭和42)年経済学部貿易学科卒業

かつて神奈川県大学には、学生の発行する英字新聞 *The Clarion* がありました。創刊号は当時ESSS(English Speaking Society)が発行したものでした。が、続刊に難点があったため、第2号からはESSSから分離・独立した英字新聞部(初代部長は1963賢卒の古家秀紀さん)が発行主体になりました。紙名の *The Clarion* は須藤兼吉教授の命名によるもので、朗々としたラッパの音で学内を活発化させる目的を秘めていました。

新聞発行はその時の政治や社会情勢に左右されつつも、10数年間続いて(中途で一時的に休刊したこともありましたが)、部員総数は累計80余人を超え、多くの学生に愛読されました。部の自慢は、3年前にコロナが出現するまでは、毎年OBたちにより新年会や忘年会を欠かさずに開催して

きたことです。今年5月、政府のコロナ感染防止政策が緩和されるのを待つて5月20日、四国・関西・東北・関東地区などから計12人のOBたちが横浜中華街に結集し、久しぶりのOB会を開催しました。

結集したOBたちは、学生時代に英字新聞発行に燃やした情熱や難難辛苦を懐かしく語り合いました。当時は取材専用カメラもなく、パソコンやスマホと言ったデジタル機器の無い時代で、原稿は全て手書き。作業効率も悪く、印刷所の現場で誤字を発見し、慌てて訂正したことなど話題は尽きませんでした。卒業してから半世紀が過ぎ、他界した仲間も増えました。今回、横浜中華街に集まった仲間たちの気持ち全員澁刺



横浜中華街に集まった仲間たち。前列右から2人目が筆者。

としていたことは印象的でした。今回はOB会の話になりましたが、次回は神大に在学中の後輩たちにとつて、英字新聞の復刊が望ましいと思う重要な意義をお伝えしたいと思ます。

腕時計

和歌山県 岡村 光惟(86歳)

1961(昭和36)年法経学部法学科卒業

貧乏学生には持てなかった腕時計。卒業して(1961年)初めてもらった給料で、横浜市内のデパートで手巻きの腕時計を買った時の嬉しさ。故障することもなく35年間使った。その後、携帯電話の使用もあって時計は机の中に入れてまま忘れていた。過日、なにげなく机の引き出しを開けると懐かしい思い出時計を見つけた。取り出して恐る恐る…ネジを回す…と、秒針が元氣よく動き出してびっくりです。

この時計は私の青春時代と共に悲喜こもごも歩んだ思い出時計です。▽友だちと時間厳守の約束で急いだとき▽一人住まいのアパートで朝食を切らしながら駅まで走ったとき▽乗り物に乗ったとき、時計を付けた方の腕を前に出したうれしさ、



などなどです。

いま、机の上に置き、PCを操作中も気持ちよくチックタックと正確に時を刻む音を聴きながら、過ぎし日の数々の思い出に浸る。

我が母校

愛媛県 井関 文和(80歳)

1967(昭和42)年

経済学部経済学科卒業

友だちにも恵まれ、大熊信行ゼミで意義ある学生生活を過ごした。当時の学長は創立者である米田吉盛先生であった。先生は、愛媛県内子町出身であり、私のふるさと宇和島市とは近いため親近感を持った。

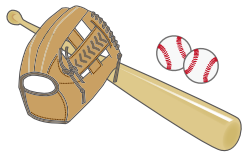
卒業後、愛媛県の高校教員として採用され、最初の勤務地は母校・宇和島東高校であった。同校には教頭時代を含め通算18年間勤務した。退職後、同窓会会長を4年間務めた時、鈴木健吾君が神大に進学し、その後、箱根駅伝で大活躍をした。今や鈴木君は日本を代表する選手となった。来年のパリ五輪に出場し、活躍してくれることを願っている。

母校での一番の思い出は、全国にも知られたっていた名将の上甲正典野球部監督・校長から、選手たちの人間教育を要請されたことである。甲



子園の常連校となっていた野球部が、落ち込み、這い上がるために、強く要請された。苦勞した甲斐あって選手たちは次第に心を入れ替え、目標に近づき、なんと甲子園連続4季出場を果たしたのである。この間、プロに4人の選手が入団。ヤクルトでは、教え子の宮出選手と岩村選手が活躍した。ヤクルト本社の社長・成田裕氏は神大出身で現在、球団の取締役オナーもされている。また、私が校長を務めた大洲高校（旧制宇和島中学大洲分校）の卒業生である衣笠剛氏は、ヤクルト球団の代表取締役会長であり、オナー代行もされている。

大洲高校出身でLEDを発見された米カルフォルニア大学サンタバーバラ校教授の中村修二氏（ノーベル物理学賞）が2003年に帰国された際、大洲高校で講演していただいた。色紙には書かれた「ドリームを求め人生」を肝に銘じ、現在も専門学校の参与として生徒たちの夢を手助けするため、日夜奮闘している。創立100周年に向かって、さらなる繁栄と学生諸君の活躍を期待している。



神大での思い出

広島県 中村 利夫（76歳）

1971（昭和46）年

工学部応用化学科卒業

神大での4年間（昭和42～46年）の思い出を雑感として述べたい。

◇白楽駅および六角橋商店街 東京出身なので、東横線で渋谷駅から急行に乗り、日吉駅で普通車に乗り換え、白楽駅まで通った。普通車は緑色の車体で愛嬌があった。（通称あまがえる）。六角橋商店街は昭和レトロの雰囲気か漂う下町風で、親しみがあつた。当時、白楽駅前に洋画専門の映画館「白鳥座」があり、お世話になった。（ロミオとジュリエットなど名画を見た）

◇時計台および中庭 通用門を抜けると目の前に時計台が見え、毎日励まされた。時計台のある8号館の内側に中庭があり、昼休みには応援団を始め体育会系の練習があり、活気があつて、見ていて楽しかった。そこで応援団が歌う校歌を覚え、今でも3番まで歌える。

◇浜野裕司物理化学研究室 神大といえはゼミや研究室で名高い。北は札幌、南は鹿児島出身者が集い、



総勢20人の研究室。浜野教授および新井助手（のちに助教）の元で、写真化学や光化学の研究に花が咲き、熱い意見が飛び交った。中華街の親睦会で、紹興酒を飲みすぎて酔いつぶれた記憶が懐かしい。神大構内の写真をいっぱい撮って、皆で見ながら騒いだ。（美人写真もあつたように思う）

「神大会」のことなど

鳥取県 高浜 靖（84歳）

1962（昭和37）年

法経学部経済学科卒業

コロナ前まで活発に活動していた「神大会」なるグループがあつた。「あつた」とはいうものの正式に解散したわけでもないし、終了しようとは相談したわけでもない。いうなればコロナによる活動中断か、あるいは年齢的に出来なくなったというのが本当の理由かもしれない。

今をさかのぼる平成8（1996）年初夏の頃だつたと思う。横浜近在の同期5、6人がなんとなく集まったのを始まりに、以来コロナ発生前まで延々と40回を超える回数を重ねてきたはずだ。それは、昭和37年度神大卒業生を中心として全学横断的に自然発生した会だつた。法経卒もいれば経営卒、貿易卒もいて工学卒もいる。来るものは誰一人拒まず、メンバーはたぶん40～50人はいたと思うが、数えたわけではないのではつきりとしらない。要するにゴルフと親睦

を目的とした神大OBの集まりであつて、いつの間にか「神大会」と称するようになつていった。

そこには規則もなければ面倒くさい約束事もない。むろん会長とか役員云々なんて者もない。自由気ままな、いうなれば極めてゆるい会である。断つておくが「ゆるい」というのは会のことであつて、メンバーのことではない。メンバー諸氏は、一人一人が人間的魅力と実力をも兼ね備えた面々であり、まさに神大生のシンボル「質実剛健」の気概を有したわが同期、神大の素晴らしい仲間たちである。自営や会社経営の者もいたが、ほとんどはサラリーマンであり、定年退職後OBになつてから交流はますます盛んになつた。

年2回幹事より案内があり、心待ちにしてきたメンバーが全国から集結する。ゴルフコンペは静岡県駿河小山のコース。終われば箱根仙石原の神大保養施設に移動し、夜の懇親会では毎回、これでもかと盛り上がる。

話題の中心は、いつも母校のことばかり。ほとんど昭和37年卒業ゆえ（他年次卒業生も随時参加）、学生時代の思い出はすべて共通の話題から始まり、現在の神大の動向や後輩の学生たちの話し。そして宴果てるころ、必ず全員が肩を組んでの「♪：岩を打ちとどろに返す♪」の校歌の大合唱で終わる。あとは皆が好きなように二次会になだれ込み、自由気ままに至福の時間を過ごすのだ。

翌朝、スピーカーから流れる大音

量の校歌でたたき起こされ、睡眠不足の一日が始まる。その後、別れを惜しみながら再会を約して三々五々保養施設を後にする。ただそれだけの「神大会」であるが、案内が来るとなぜか万難を排してでも参加したくなる。

時は流れ、ただいま83、84歳となった同期諸氏もすでに鬼籍に入ってしまった者、あるいは介護したりされたり、健康に不安があつて動けない者など隆盛を誇ったわが「神大会」も、今や消滅の危機に瀕している。誠に残念なことである。



飛べ！未来に向かって

投稿
神奈川県 内山 曜子(67歳)

1978(昭和53)年経済学部経済学科卒業

神奈川県ブロック会は、平成27年度より毎年開催していたが、コロナのため2年間中止となつてしまった。令和4年11月5日、待ちに待ったブロック会が開催された。

令和3年4月に開設した、みなとみらいキャンパスの見学会と記念講演会だった。

高野敦教授の講演は、工学部航空宇宙構造研究室と宇宙ロケット部がハ

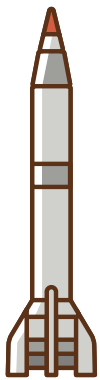
イブリッドロケット飛翔実験において打ち上げに成功し、日本記録を更新したとのことだった。

すごい！神大でロケットなんて、考えたこともなかった。ハイブリッドロケットのしくみや秋田県能代市での飛翔実験の様子の説明は、とてもわかりやすく、われわれをぐいぐいその中に引き込んで行った。

後日、横浜キャンパスの見学会に参加した際に、高野敦教授の研究室を見学させていただいた。旧図書館の一階、奥まつた所にその研究室があつた。せまい研究室の中で数人の学生が作業していた。

すごい！秘密基地のようだ。男子学生の中に女子学生もいる。孫のような学生達に未来を感じた。この学生達が神大のそして日本の未来を背負つて立つのだ。コロナのおかげで暗い話題ばかりだったが、私はこの研究室の見学で楽しみが一つ増えた。自己記録をどこまで更新して行けるのか実験は続く。

さあ、こうしてはいられない。長生きして神大生の活躍を見届けなければ。神大のハイブリッドロケットは、空高く宇宙をめざしているのだから。



読者プレゼント

賞品

- ① 神奈川大学箱根保養所
1泊2食付ペア宿泊券／3名
- ② KUロゴ入りオリジナル
「スポーツタオル」
(左右110cm×天地40cm)／10名

応募方法

ご希望の方は、はがきに希望の賞品(①か②)、名前、郵便番号、住所、電話番号(またはメールアドレス)、卒業年・学科、今号『宮陵会報』(No116号)の感想を書いて、
〒221-0802

横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学宮陵会「読者プレゼント係」
までお送り下さい。

締め切り

2023(令和5)年9月15日(金) 11時
消印有効。当選者(抽選)の発表は、賞品の発送(10月上旬)をもって代えさせていただきます。



「卒業生の声」

(No117号)のご投稿を

お待ちしております。

- ▽発行 23(令和5)年12月中旬
- ▽体裁 A4判、16ページ(予定)
- ▽部数 120,000部
- ▽字数 600字程度。テーマは自由。
- ▽郵便番号、住所、氏名、年齢、卒業年・学科、連絡先(メールアドレス、携帯電話)を明記。
- ▽締め切り 23(令和5)年10月26日(木)。掲載分には記念品をお贈りします。原稿は一部手直しする場合があります。
- ▽送付先 〒221-0802
横浜市神奈川区六角橋3-27-1、
神奈川大学宮陵会
「宮陵会報No117号」係。
郵送またはメール
(kyuryou-jimu@kanagawa-u.ac.jp)

情報をお寄せ下さい

国内外で活躍している卒業生の情報(他薦、自薦)や話題をお寄せ下さい。すべては紹介できませんが、年2回(8月と12月)発行の『宮陵会報』や年1回(4月)発行の『宮陵』で紹介いたします。

神奈川大学宮陵会広報委員会



宮陵会きゅうりょうかい会費納入(正会員登録)のお願いとその方法

1 まず住所の登録をお願いします。

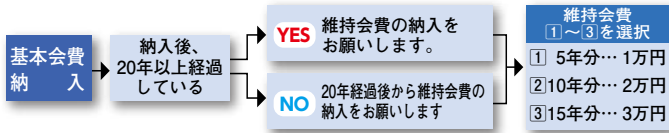
転居などにより、会員の皆さまに大学や宮陵会からの通信物をお届けできないケースがあります。最近、通信物が届いていない方は現住所の登録をお願いします。

ご住所の登録や変更は、

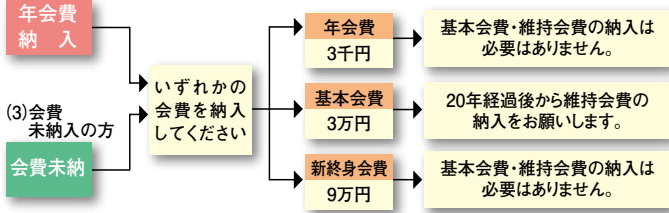
- ① 郵送
- ② FAX
- ③ メールのいずれかで、

名前(卒業時から変更になっている場合は卒業時の氏名も)、卒業年月、卒業学部・学科、生年月日、日中確認の取れる電話番号等を記入し宮陵会事務局へ。

(1) 基本会費



(2) 年会費



<https://www.kanagawa-u.ac.jp/kyuryokai/about/fee.html>

一般社団法人神奈川大学
宮陵会事務局
〒221-0802
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
神奈川大学内
TEL 045-481-5661
(内線 2451)
FAX 045-413-0791
E-mail
kyuryou-jimu@kanagawa-u.ac.jp

2 会費納入のお願い

会費は、年会費、20年間有効の基本会費とその後に入金する維持会費、及び終身会費などの種類があるため、納入状況は個人により異なりますので、同封の「会費の納入について（お願い）」、「会費納入要領」をご確認ください。

納入いただきました会費は、宮陵会組織としての運営や広報活動、地域組織（国内外の地域組織、職域、同期・同好組織）への活動助成、在学生への給付奨学金や課外活動への助成、大学の行事（卒業祝賀会やホームカミングデー）への協賛金などに充てられます。

▽卒業生の会員種別と会費

「一般社団法人神奈川大学宮陵会」は神奈川大学の同窓会組織の正式名称です。卒業生は全員宮陵会の会員（同窓生）となります。

① 卒業生の会員種別

〈正会員〉住所が判明しており（登録されておらず、なおかつ会費を納入している会員。正会員は、代議員の被選挙権・選挙権を有し、8月と12月の年2回発行の広報誌『宮陵会報』のほか、年1回5月発行の広報誌『宮陵』もお手元に届きます。

〈普通会員〉正会員以外の会員（住所不明や会費未納会員）
正会員への登録方法↓ご住所の登録と会費納入

- ① 年会費 3千円で毎年納入
- ② 基本会費 3万円を一時に納入
20年間有効
- ③ 維持会費 基本会費を納入後21年目以降の会費
5年分 1万円（一括納入）
10年分 2万円（一括納入）
15年分 3万円（一括納入）
- ④ 終身会費 9万円を一時に納入
今後の会費納入は不要



同窓会「宮陵会」命名の経緯

現在も杉山神社（杉山大神）は横浜市神奈川区六角橋2-31-23にあります。神奈川大学が六角橋に移転する前の丘陵地帯（現・横浜キャンパス）は、この神社の正面に当たることから、お宮（杉山神社）に面している場所として「宮面（みやめん）」と呼ばれていました。当時、電気科卒業生の縦のつながりの会（OB会）に「宮面会（みやもかい）」が使われていたため、混同をさけるために同窓会を「宮陵会」（宮面丘陵を略称したもの）と命名したと伝わっています。

横浜キャンパスを訪れた際、この神社にお参りし、ここからキャンパスを眺めてみると命名のいわれに納得できるのではないのでしょうか。（編集部）



現在の杉山神社



杉山神社から望む横浜キャンパス